

平成26年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第四中学校第1学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 読み書きの基礎となる漢字学習の徹底。 自分の考えをまとめて発表すること。また、相手の考えを理解しながら聞くこと。 既習事項を応用して小説等を読むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の小テストの復習と練習の継続をはかる。 人前で発表することに抵抗感がある生徒が多いため、小グループでの発表をとりいれる。聞くときには必ずメモをとることを習慣とさせる。最終的には原稿なしでのスピーチを目指す。 小説の読み方、説明文の読み方等、読むときのポイントを示しながら、読んでいく。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算問題の習熟 授業に対する積極的な姿勢 数学的な思考、表現力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時や課題等で基本的な計算問題の演習に取り組みせ、基本事項の習熟を図る。 生徒が発言したり、解答する機会を多く設定する。机間指導を行いながら生徒の取り組み状況を認めていく。 ①自分の考えを発表し伝える活動を行う。 ②レポートにより、個に応じて思考の過程や表現力を評価する。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 発表や説明を求める場面で、具体的に表現したり、伝えるなどの言語活動の充実。 記述問題で字の間違いが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言する際のルールを明確化する。誰もが分かるように発言し、できなかった場合はやり直しさせるなど、徹底させる。 テストの際、間違え直しを实践させ、正しい漢字を身に付けさせる。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な思考力・表現力の定着。 課題に対する学び合う力。 正しい実験・観察技能をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「目的→予想→討論→実験・観察→考察→まとめ」といった流れをさらに定着させ、論理的な思考力を養わせる。 適切な課題を与え、予想と討論を行い、課題に対する意見を持ち、音声として伝えさせる。 毎時間、観察・実験を引き続き行い、技能をつけ、科学に対する関心意欲もさらに持たせる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> パート練習やグループ活動において、リーダーを中心とする自主的な学習活動が未熟。 発表や歌唱など、思いや意図を直接的に表現する力の低下。 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーの役割や活動のねらいを明確に示すことで自主的に活動できる環境を整え、リーダーや仲間を尊重する態度を育てる。 発表・表現する規模を少人数から全体へと広げ、表現の機会を多く設定する。その中でアドバイスを伝え合う場面をもち、自分の表現に生かす工夫について考えさせる。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> 絵の具や、はさみ・のりといった身近で生活に密着した道具を、安全に的確に使いこなす力の低下。 自国、諸外国の美術の歴史と美術文化を学ぶ機会の減少。 日常生活の中に様々な美術的要素があるという視点の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵の具を使用するデザインの題材を設定し、塗る順序や塗り方の技能などを細かく板書・掲示し、実演も含めて指導する。また、コラージュの題材を通して、はさみ・のりの適切な扱いを学ばせる。 美術史をタイムトラベル形式で疑似体験させる授業を通して、歴史や美術文化に興味を持たせる。 プロダクトデザインを授業に取り入れ、日常生活と美術の密接な関わりに気付かせる。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な運動能力が低い。 集団行動や安全に関する行動及びリーダーを中心とする自主的な活動が身についていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の補強運動の中に柔軟性、敏捷性、全身持久性の種目中心に取り入れていく。 全体指導とグループ活動の中で、効率よい行動やリーダーや仲間を尊重する態度を育てる。 	
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 道具や工具を使う経験の不足 バーチャルな世界での体験が多く、実体験が不足しており、手先を使った作業が苦手。さしがね等で水平、垂直を意識して線を引くことも、能力差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具や工具を使用する時に、授業のねらいを明示した上で、実物投影機などで工具の使い方を説明するなど説明の工夫を行った。 	
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の英語発音量の小ささ 英語の必要性を感じ、向上心を持って授業に取り組む姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> 自信をもって発音できるように何度も声に出させて繰り返し練習させる。 異国の歴史や文化を紹介し、発見や驚きを増やしていく。教材・教具のレパートリーを増やし、五感で習得できる授業を目指す。 	